



第 35 号

2010年 6月 20日

発行者 車田 孝夫
発行所 栃木県立大田原高等学校
紫塚同窓会
印刷所 飯村印刷所



会報発行に寄せて



同窓会長 車田 孝夫

紫塚同窓会の運営については常日頃、会員の皆様から暖かいご理解とご協力を賜り、お蔭様でこの一年間をなんとか無事に過ごすことが出来ました。有難く厚く御礼を申し上げます。今年度総会は、去る五月十五日に開催され、報告・協議事項とも、総てご承認いただきました。

同窓会の活性化、財政、事業・行事の見直し、その他の問題については、正副会長・監事会での意見交換の結果を常任理事会でご検討いただき、総会にお諮りする議案が出来上がる事になっていきますが、本会の組織の根幹は各年次の皆様のいわば横の繋がりにあります。常任理事、理事の方々のお骨折りによって同期生間の結びつきが、より一層強まるとともに、さまざまな年次の会員の皆様から同窓会

勢出席されました。遅く大高生活を送っている後輩たちも先輩の記念講演に熱心に聞き入っていました。十年会は、同窓会の伝統ある

近況報告



学校長 森 島 堅 一

同窓生の皆様には日ごろから母校の充実発展のため、多大な御支援、御協力を賜り誠にありがとうございます。在校生は今、八十五キロ強歩や寒稽古で心身を鍛え、それぞれの進路実現を目指して、日々努力を重ねております。そして、質素堅実の校訓のもと、文武両道を実現すべく、勉学はもとより、部活動や生徒会活動にも力を入れていくところです。

開催されたインターハイにも水泳部、山岳部、ソフトテニス部が厳しい予選を勝ち抜き、見事出場を果たしました。特に山岳部は、県総体、インターハイ予選、新人大会の三つの大会を全て制覇し、県内には敵なしでした。さらには、野球部が五年ぶりに準々決勝に進出するなど、学校全体が盛り上がり熱い夏休みとなりました。さて、この三月には、二百三十八名の卒業生が同窓会に入会させていただきます。卒業生には、「当たり前前」のことを当たり前前にする人間になってほしい」という思いを込めて、眼横

一大行事です。今年も、該当年次の皆様が大勢ご参加下さいませに。そして、この機会に、それぞれが、恩師を囲んで同期会を開いて旧交を温めていただけたらいいなと思っています。同窓会の活性化のために各支部の活動も活発になることを念じます。最後にになりましたが森島堅二校長先生はじめ諸先生のご協力に、感謝申し上げますと共に母校の益々の発展と会員諸氏のご健勝を祈念いたします。

鼻直（がんのうびちよく）という言葉を贈りました。これは、曹洞宗の開祖である道元禪師が中国での修行を終え、帰国したときに言われた言葉です。帰国後の第一声が、「眼横鼻直、空手還郷」という言葉だったそうです。「当たり前前」のことを仏道の神髄であると悟ったので、經典や仏像などは持たずに手ぶらで帰ってきた、つまり、「仏道の修行は、経を読み、仏像を拜むだけでなく、自分の足をしっかりと固め、当たり前前の日常生活を真剣に行っていくことこそが大切だと分かったのだ、何も持たずに帰ってきた」ということです。この「当たり前前」のことを当たり前前に行う、「自分を飾らず、ごまかさず、正直に生きる」というのは、易しそうでいてなかなか難しいことだと思えますが、これは、本校の校訓である「質素堅実」の精神にも通じるものであると思えます。今社会は、科学技術の急速な発展や経済のグローバル化などにより、物質が豊富になり、大変便利な世の中になっています。このような時代であるからこそ、「質素堅実」の原点に帰り、自分で考え、判断し、決断し、行動できる力を身に付けさせることが大切であると考えています。最後になりますが、紫塚同窓会のみならずの御発展と、同窓生の皆様の一層の御活躍を御祈念申し上げます。

平成二十二年総会並びに

栄典者祝賀会

去る五月十五日(土)平成二十二年の紫塚同窓会総会並びに栄典者祝賀会が、大田原市「いわいや」において同窓生、事務局を合わせ八十九名の参加を得て開催された。

総会は、例年通り十年会該当年次に当たる高二十二回(代表常任理事)和泉卓哉氏の司会で進められた。

先ず車田会長から「昨年度の総会決議を受け、各年次の常任理事、理事の見直しが進み、活性化の兆しが見えてきた。二年後の創立百周年を控え、一層のご理解とご協力をお願いしたい」との挨拶があった。続いて森島校長先生が、「文武両道を目指し、職員一丸で生徒の指導、教育を行っている。同窓会の、一層のご支援をお願いしたい」と挨拶された。引き続き車田会長が議長になり議事に入った。議事録署名人として高三十二回・後藤伸一氏、田代誠教諭が議長から指名された。

【協議事項】議題は、常任理事会におけるものと同様なのでこの紙面では割愛する。

◇総務担当小林副会長から事業報告、財務担当井上副会長から決算報告、後藤監事から監査報告があり質疑に入った。

本部も活気が出てきて素晴らしい。同窓生の意識向上と母校愛の醸成に一層の尽力を願いたい。寄付制度については、そのあり方について周知願いたい等のご意見もあったが、協議事項は全て原案通り可決承認された。

【報告事項】議題は、常任理事会でのものと同じ。

◇各担当副会長から要点の報告があった。特記事項として、常任理事・理事見直し後の名簿一覧について、「引き続き変更追加が生じた年次は、速やかに同窓会事務局に報告願いたい。年次の活性化のキーマンは、常任理事・理事であるので、活発な推進を願いたい」と小林副会長が説明した。昨年の十年会は、前年比四十%増で活気があった。本年もより活気が出るよう協力要請が、篠崎副会長からあった。

◇森島校長から創立百周年実行委員会、紫塚奨学団の説明があった。

◇会場を移し総会同様、和泉卓哉氏の司会で栄典者祝賀会が催された。本年度の栄典者は次の通り。

◇秋の叙勲
小峰俊男氏(高7) 瑞宝双光章
青木 勲氏(高9) 旭日双光章
磯 寅雄氏(高9) 瑞宝双光章

花塚卓雄氏(高17) 瑞宝単光章
◇大臣表彰

吉川恵造氏(高7) 総理大臣表彰
猪股秀章氏(高21) 法務大臣表彰
青柳能明氏(高26) 厚労大臣表彰
齋藤良則氏(高28) 文科大臣表彰

◇春の叙勲

藤原林次郎氏(併中) 旭日小綬章
深澤 實氏(高7) 瑞宝双光章
斎藤典男氏(高10) 旭日双光章
福田 敬氏(高11) 瑞宝双光章

車田会長から栄典者の紹介とお祝の言葉があり、出席された方々からお言葉をいただいた。何れもその人柄を伺い知る含蓄に富んだものであった。

大島副会長の音頭で祝宴に入り、和やかな中にも熱気に満ちあふれた。会の締めは、出席者最年長の、中34回・中島勇平氏の万歳三唱で名残を惜しみつつ閉会となった。

常任理事会

平成二十二年二月十八日(木)母校会議室で開催された。出席者、七十五名。

議長、車田会長。議事録署名人、高六回・古山正氏、藤田昌彦教諭。

議題は次の通り。

【協議事項】①平成二十一年度事業報告、②平成二十一年度一般・特別会計中間報告、③平成二十二年事業計画・予算(案)、④その他

【報告事項】①創立百八回記念

講演者について、②常任理事・理事の変更・追加について、③本年度栄典者について、④常任理事・理事の見直しについて、⑤財務状況について、⑥十年会について、⑦会報について、⑧会員名簿について、⑨百周年実行委員会について、⑩紫塚奨学団について、⑪その他

◆議事に入り、それぞれ担当副会長から「同窓会総会にかける原案」として説明し協議した。協議事項は全て原案通り承認された。高八回の稲垣常任理事から「執行部ははじめ皆さんの努力で活性化の兆しが見えてきたことは大変喜ばしいことである」と感想が述べられた。その他特記事項はなく、閉会となった。

紫塚同窓東京会

会長 大島 栄 寿 (高6回)

平成22年度の総会は、11月5日午後6時グランドプリンスホテル赤坂(旧赤坂プリンスホテル)で開催します。

事務局 猪 股 秀 章 (高21回)
電 話 03-3586-5586
F A X 03-3583-0583

第75回総会

近畿紫塚会

平成22年度総会は10月23日

会 長 八木沢 武雄(高10回)

連絡先 〒639-1013
奈良県大和郡山市朝日町1-54
大和郡山アーバンコンフォート414号
事務局 坂 和 恒 夫(高11回)
TEL 0743-54-1526

宇都宮紫塚同窓会

会 長 青 木 勲(高9回)

事務局 〒320-0833
宇都宮市不動前1-3-14
北関東総合警備保障(株)内
T E L 028-639-0308
F A X 028-638-8396

いわいやは365日が大安吉日です

料亭 岩井屋

〒324-0056
大田原市中央2-13-1
☎0287(22)2032(代)
代表取締役 青柳能明(高26回)

平成21年度紫塚同窓会一般会計決算報告

収入額	5,717,205
支出額	4,234,111
残額	1,483,094

1. 収入の部

項目	予算	収入	増減	備考
前年度繰越	1,627,855	1,627,855	0	
入会金	2,370,000	2,370,000	0	平成20年度卒業生の入会終身会費
会費	650,000	860,000	210,000	同窓生の終身会費
寄付金	100,000	205,000	105,000	一般寄付10名
雑収入	522,145	654,350	132,205	会報の広告料、利息等
合計	5,270,000	5,717,205	447,205	

2. 支出の部

項目	予算	支出	残額	備考
創立記念費	250,000	184,910	65,090	講師への謝礼、米費昼食等
総会費	250,000	181,350	68,650	新聞への広告掲載、案内書等
十年会費	500,000	455,666	44,334	案内状の郵送、通信費等
会議費	150,000	65,936	84,064	常任理事会等の経費
通信費	50,000	33,850	16,150	常任理事会の案内書等
会報	1,300,000	1,398,567	△ 98,567	会報の印刷、郵送等
卒業褒賞補助	100,000	100,000	0	卒業証書ホルダー代金の補助
母校活動補助	600,000	600,000	0	多岐回生会等の活動補助
慶弔費	450,000	275,060	174,940	祝い金、香典等
支部会等補助	450,000	420,000	30,000	支部会・同期会への補助金
旅費	330,000	239,985	90,015	支部会・同期会出席に伴う交通費等
事務費	100,000	11,587	88,413	消耗品等
基金積立	240,000	238,000	2,000	110周年に向けての積立
雑費	70,000	29,200	40,800	郵便振替手数料等
予備費	430,000	0	430,000	
合計	5,270,000	4,234,111	1,035,889	

平成21年度紫塚同窓会特別会計(基金)決算報告

項目	金額	備考
収入額	21,404,689	前年度からの繰越・預金利息
支出額	0	
残額	21,404,689	

平成21年度紫塚同窓会110周年記念事業積立決算報告

項目	金額	備考
収入額	475,075	繰越金・基金積立・預金利子
支出額	0	
残額	475,075	

平成21年度紫塚同窓会事業報告

- 4月17日(金) 第107回創立記念式典
(記念講演講師:高10回 桑原 裕氏)
- 4月17日(火) 監査(後藤・加藤監事)
- 4月28日(火) 第1回正副会長監事会
- 5月8日(金) 総会及び十年会第1回準備会
- 5月16日(土) 総会及び栄典者祝賀会
- 6月20日(土) 同窓会報第34号発行
- 7月29日(水) 十年会第2回準備会
- 8月15日(土) 第56回十年会
(高11回、高21回、高31回、高41回、高51回)
- 10月2日(金) 第2回正副会長監事会
- 12月16日(水) 第3回正副会長監事会
- 22年
- 2月10日(水) 第4回正副会長監事会
- 2月18日(木) 常任理事会
- 2月28日(日) 同窓会入会式

平成21年度各支部総会等報告

- 6月17日(水) 県庁紫塚同窓会総会
ニューみくら
- 6月27日(土) 紫塚同窓会矢板支部総会
矢板イースタンホテル
- 7月17日(金) 紫塚同窓会東京会役員・幹事会
品川プリンスホテル
- 10月18日(日) 紫塚同窓会ゴルフ大会会長杯
琵琶池ゴルフ倶楽部
- 10月24日(土) 近畿紫塚会総会
京都タワーホテル
- 11月6日(金) 紫塚同窓会東京会総会
グランドプリンスホテル赤坂
- 11月14日(土) 小川地区紫塚同窓会総会
みづ乃
- 22年
- 3月12日(金) 宇都宮紫塚同窓会総会
ホテル丸治

平成22年度紫塚同窓会事業計画、同じく一般会計予算、各支部総会等の記事は、紙面の都合で18頁に掲載しました。

季節の上生菓子
伏見屋菓子店

伏見 功一 (商1回)
伏見 雅志 (商30回)

TEL 0287-23-2438
FAX 0287-24-2438

医療法人 大田原厚生会

室井病院

理事長 室井 尚武
理事 室井 秀太 (高44回)
副院長 室井 宏文 (高48回)

〒324-0042 栃木県大田原市末広1丁目2番5号
TEL 0287-23-6622
FAX 0287-23-7825

宗教法人

大田山光真寺

住職 黒田 俊雄 (中40回)

〒324-0051 栃木県大田原市山の手2-11-14
TEL (0287) 22-2033

第56回十年会

夢還る五度目の十年会雑感

古内 勲 (高十一回)

私達が初めて十年会に招かれたのは昭和四十四年。四十年前のことである。その当時、卒業五十年目で参加されていた先輩は僅かに数名であった。卒業者数、戦争の影響、現在よりは約二十年は短かった平均寿命等を考えると致し方なかったことだったろう。しかし、今年私達の学年の出席者は五十七名。諸々のことを考えると、感慨深いものがあった。幹事役の一人は、案内状の發送数二百四十に比べ参加者の少なさを嘆いていたが、他の年次よりは格段に多い人数であり、今回は過去四回より更に多い出席数であった。これはこの度、後藤秀雄君、蜂巣貞美君の御尽力により商業科の同期会を同時開催していただいたお陰であると感謝している。四十年前御一緒し、会話した旧制中学卒業の方々とのお話の中で、恩師、学校の恩情に対する報恩の念と云うものが強く脈々と生きているものであると感じた。しかし、今回我々の出席者の多さを後輩の方と比べてみると、私達の世代には未だ何処かそんな心遣いが色濃く残っている故かと思われた。

三十四年四月には皇太子殿下が御成婚され祝賀パレードがテレビ中継されることになって受信機の普及が急速に進んだ。全戸数の約五十%に設置されたと報じられた覚えがある。この五十年間我々が高校時代に夢見たこと、高速交通体系(自動車の普及、新幹線網の整備、航空機の発達等々)通信情報網、機器の発達などは全て叶えられ、その計り知れない恩恵を被り、日々の生活を謳歌している。医療技術の発達や施設の充実のお陰で個々の寿命も想像を越える範囲で伸び、真にありがたい時代を享受している。しかし、その一方でそれらのもたらす弊害にも悩まされる時世にも至った。これら乗り越えて次回も一度、卒業六十年目の最後のお招きを受けて、果して何十名の方々が参加でき得るか。現在の元氣さからすれば少なからずの数となるうかとも考えられ、夢は果てしなくひろがっております。

「平成21年度十年会」報告

猪股 秀章 (高二一回)

四十年ぶりの再会、私たちの卒業は七十年保安の前年、すなわち東大闘争の終焉の年である昭和四十四年三月であった。全国に学園紛争が燎原の火のごとく吹き荒れ、大高もその例外とはなりえなかった。私は、卒業式を中止に追い込んだ首謀者で

あるが、厳粛なうちにも、格調高き卒業式を望んだ同窓生には申し訳ないことをした、と思うが、その責めを負って真直ぐに人生を開拓していきたい、と山谷開放運動に身を投げることにした。三里塚闘争の中で団結小屋を作ったこともあり、その団結小屋が燃え上がるのを静かに見送った経験もある。その後、紆余曲折を経て法律実務家である司法書士となり、還暦を迎える年となった。

高二一回卒の代表幹事はPTA会長経験者の鈴木俊貴君、幹事は、槐一博君、菅谷正男君、大野千里君、渡辺涉君、熊田幸雄君そして私の七人が中心となって参加者募集の労を執った。同期会は、西那須野駅東口のクワトロクルーカーズ(幹事の渡辺涉君のご令息が経営)で行った。参加者は三十名を上回る盛會ぶりであった。参加した同窓生の年輪を感じた一日であった。なお、閉会の辞は慣例により高二一回卒の参加者の中から、奇声とヤジの私が担当した。戦後六十五年、日本の民主主義はどこまで浸透したのであろうか。若者よりは、私を含めた老年世代に問題があるように感じたのは、私だけであろうか。

三度目の十年会

津久井秀一 (高三一回)

高校三一回卒業の私達にとつ

て今回の十年会は、通算三度目のものになります。齢五十を目前に控え、すでに髪には白いものも目立つ年齢となりましたが、各クラスの同窓会幹事の御尽力により、これまで連絡が取れなかった同窓生の所在、消息も少なからず寄せられ、当日の十年会には、三十七名の仲間が集いました。担任の先生方からは植木健先生、古澤實先生、今井功先生、同窓会副会長をなさっていらつしやる小林惺先生の四名の先生方にご出席いただきました。卒業してからすでに三十年も経っているわけですが、昔の思い出に花が咲くと不思議なこと

に今まで思い出されることもなかった高校時代の細々とした高校生活の場面場面が次々に語られ、非常に懐かしい思いを抱いたのは私だけではないはず。場所を「荒喜屋」に移した同期会では、卒業アルバムを持参してくれた元生徒会長の頼高誠君の心憎い演出も相まって、一層楽しいものとなりました。それぞれ近況を述べあい、現在従事している仕事の状況などを語り合ううちにあつという間に時間は過ぎ、閉会の後は名残を惜しみつつ親しいもの同士で三々五々分かれていきました。

次に会うのは十年後。その時は我々のほとんどが定年を目前に控えていることでしょう。その時、様々な経験をを経て、なお、自分たちが生きていく現在を生

再会の宴

乾 幸洋 (高四一回)

私達にとって二度目の同期会。恩師の渡辺光男先生、井上静男先生、神島仁誓先生をお迎えし、三十名の仲間共々再会を祝しました。

前回と大きく異なるのは、皆「いい大人」になったことでしょうか。ある者はトップとして、またある者は中堅として活躍している様子。仕事や家庭の話など、話題は尽きませんでした。さて、私たちにとって共通の、



そして最大の話題は「強歩」です。特に、提橋校長先生による「振気一番」の大号令のもとで発した第一回目は、新聞に「狂歩」と書かれるほどの、まさにサバイバルでした。そして、初めて三年連続完歩を味わったのも私達。今思えば、大高の新たな伝統に立ち会えてよかったと思っと思っています。あくまで、今思えばですが。

懐かしい顔、あふれる思い出。でも、時は待ってくれません。十年後の再会を固く誓い合い、別れとなりました。みなさん元気で。そして、また会おう。

最後にご報告が。今回の開催にあたり多大なご尽力をいただいた大金勉君が、私たちの学年の代表常任理事に就任されました。べんちゃん、これからよろしくお願いしますね。

始めての十年会

高田 正義 (高五一回)

母校を卒業して早十年、平成二十一年八月十五日、いよいよにて、私達の学年にとって初めてとなる十年会が行われた。

そこでは、十年ぶりの再会となる同期の仲間や恩師の方々と、思い出話に花を咲かせる。当時の学校生活を懐かしく思い出し、近況を報告し合う。その様な時間を過ごしながら会は進む。

この十年会ならではの楽しみは、多くの先輩方とお会いでき

る事であろう。自分より多くを経験し、尊敬すべき諸先輩方との出会いは、この場でしか出来ない、貴重な経験であった。そんな先輩方が気さくに話しかけて頂けるといふ事も大変に有難い事であろう。

世代を越えた交流こそが十年会の醍醐味である。それを通じ、大田原高校の歴史と伝統を感じる会でもある。次の十年会の際には先輩方を見習い、自分の後輩とも交流を持ち、伝統を継いでいきたいものである。

また十年会では、全世代での本会の後に、同期だけで集まる二次会も同日に合わせて催される。そこでは当時に戻ったかの



様に、懐かしい旧友達の姿になる。共に学んだ仲間達と交わす盃には、非常に感慨深いものを感じ、そして、楽しい事でもある。

次の十年会もまた、地元に住む者として尽力し仲間とともに楽しめる会を開催したい。

最後になりますが、不慣れな私達と共に会の開催に御力を貸して頂いた藤田先生、本当にありがとうございました。

司法書士法人片柳事務所

簡裁訴訟代理人 第206005号
大田原簡易裁判所 民事調停員
宇都宮地方裁判所 民事調停員
代表社員 司法書士
片柳 洋 (高22回)
〒329-2711
栃木県那須塩原市石林224番地6
(大田原西那須野街道一本松ぼっば通り沿い)
TEL0287-37-5500 FAX0287-36-8672



(株)奈良スポーツ

代表取締役 奈良靖久 (高12回)
大田原市紫塚2-2609-97
TEL 0287-22-2670
http://www.narasp.com

猪股司法書士事務所

司法書士 猪股 秀章

(高21回)

紫塚同窓東京会事務局長

〒106-0041
東京都港区麻布台3丁目1番5号 電話 03-3583-8657
日ノ樹ビル401号 FAX 03-3583-0583

建築家からの提案「人と環境にやさしい建物」

有限会社 和泉設計

代表取締役 和泉卓哉 (昭和45年)

〒329-2703
栃木県那須塩原市槻沢322番9
TEL 0287-37-4871
FAX 0287-37-4872

安心、安全、美味



肉の金澤

那須野ポーク 代表取締役 金澤 駿一 (高11回)

〒325-0052 那須塩原市中央町本店 TEL 0287 (63) 4129
FAX 0287 (63) 8464
弥生町支店 TEL 0287 (63) 5673
http://www.nikunokanazawa.com



那須の美酒

池島酒造株式会社

代表取締役
池嶋英哲 (高20回)
池嶋佑介 (高52回)

〒324-0036
大田原市下石上1227
TEL 0287 (29) 0011

支部だより

紫塚同窓東京会

副会長 岡本之良(高一六回)
昨年十一月六日(金)第五十七回東京会総会と懇親会が開催された。会員、招待者、それに千草会東京支部からの参加者を合わせ百三十一人の参加であった。

総会の前に行われた特別講演会では、高十回生の桑原裕氏(AVIN社長、東大大学院卒)が、日本の技術が世界的に活かされていることを自らの体験から紹介された。
総会では、事業及び財務報告



平成22年度 紫塚同窓東京会 主要年間スケジュール

Table with 4 columns: Date, Event, Location, and Remarks. It lists various events from May to March, including golf tournaments, meetings, and dinners.

や会計監査報告の後、桑原裕氏、相澤弘邦氏(高十六回生)に感謝状が贈られた。桑原裕氏は自著の「技術経営とは何か」を出席者全員に寄贈された。相澤氏は昨年十月銀座で木版画個展を開催し、売り上げ金の一部を東京会に寄付された。
また、特別講演に先立って、第五回異業種交流広場が、七社の出店で開かれた。
懇親会では、本部から来られ



た車田会長を始めとし来賓として渡辺喜美衆議院議員、千草会岡田前副支部長、平山宇都宮会副会長や、大高現状報告をされた初参加の森島堅二校長(高二十二回)、初企画の恩師招待で参加され懐かしい再会となった小松眞一郎先生(再六回)、さらに、千草会からの来賓も交えて楽しく賑やかに歓談・飲食のうちに進行し、最後には初参加者が壇上で脚光を浴びた。
そして、次もこの場で会い交えることを確認し、校歌合唱でお開きとなった。
今年は東京会も活動名簿作成の事業があり、二月から準備を始めており、各学年理事に最終確認をお願いする段階である。名簿は同窓会活動のために極めて重要であり、会員にとって有

用な情報を掲載したい。
また、ホームページの充実も今年の大きな課題である。既にあるものを包括するものとして、去る三月に新しく開設した。URLは
http://www2.ocn.ne.jp/~purple/である。新しい情報、会員が欲しい情報を掲載して、進んでアクセスしてもらえようにしたい。また、会員の率直な意見を集約して、会の充実・発展に活かしていきたい。
このホームページも活用して、「若手会員の会への積極的参加」を促し、多くの現役若手会員が会に興味をもち、参加するよう働きかけていきたい。会に魅力を感じ、出かけたくなるようにすることが重要である。
更に、同窓会の運営費の確保も大きな課題であり、従来から議論されているが、容易に案が見つけられないのが現状である。目下いろいろ模索中であり、早急に目途をつけたい。

近畿紫塚会

会長 八木沢武雄(高一〇回)
大高同窓会で今年74回を数え歴史のある近畿紫塚会でありませんが、転動した頃はその存在も知らず、大阪ガスに勤めていた先輩に誘われて入会したのを今は懐かしく思い出されます。
近畿紫塚会と千草会近畿支部とが合同で総会を実施する契機になったのは、阪神淡路大震災以降であります。大田原を故郷に持つ仲間が、あのような災害に遭遇して黙って居られない心

境からだったのではないでしょうか。
平成21年度近畿紫塚会・千草会近畿支部の活動を報告します。
○第74回近畿紫塚会・千草会近畿支部合同同窓会
十月二十四日
場所 京都タワーホテル
紫塚会本部より車田会長、増副副会長、加藤監事、大高より森島校長、藤田教諭、千草会より川上会長、大田原女子高校より洪井校長、東海林教諭を迎え近畿紫塚会九名、近畿地区大学生が四名、千草会近畿支部五名にて執り行うことが出来ました。

森島校長、東海林教諭は新任ですが、校長は以前大高に六年間勤められた経験者であり、新任と云う感じを受けない。
車田会長は紫塚同窓会幹部の役割分担を決め、来る百十周年に備えるべく体制固めをしていくことが強い響きとなっており、参ります。近畿紫塚会として何らかの貢献をして行きたいと思えます。
○親睦ゴルフ
プライベートゴルフ 四回
紫塚GFクラブ 十月十八日
琵琶池カントリー 近畿紫塚会より三名参加
○スポーツ応援
三月二十日 大阪舞洲グラウンドにて高校ソフトボール大会
栃木県代表の大田原女子高校ソフトボール部応援
○大阪天神祭り 七月二十五日
船渡御への参加
昨年に続いて有志による参加者総勢十四名。

「一度やったら止められない」心境とはこのような事ではないか？

夕闇迫る頃ビール片手に涼しい風を受けながら、行き交う船は何艘もあり互いに挨拶は「大阪締め」花火が勢いよく何発も打ち上げられて大阪の夏は締められるのです。

以上のように近畿紫塚会、千草会近畿支部ともに連携をとりながら各種イベントを実施しています。

世界同時不況と言われるような時代を迎えています。このような時には「質素堅実」が生きかされるのであります。

母校のバックボーン「基本は清貧精神」であり、85K強歩を含めますますの発展を関西より祈念いたします。



近畿紫塚会

宇都宮紫塚同窓会

三月十二日、宇都宮市内のホテル丸治で平成二十二年度の総会を開催されました。当日は森島校長先生、同窓会副会長増渕忠行様、同窓東京会長大島栄寿様が出席されました。

懇親会の席上、青木会長が所蔵する東野鉄道のビデオを鑑賞し、昔日の面影にひたりながら沿線の話に花を咲かせておりました。

当日は他に塚田姉妹によるオカリナ演奏も行なわれ、会場に華をそえました。



宇都宮紫塚同窓会 総会

県庁紫塚同窓会

細川 智彦(高三九回)

県庁紫塚同窓会は、会員相互の連絡と親睦を図ることを目的とし、県庁に在職する大高OB

で組織されています。平成二十一年度は、新たに八名の新規採用職員を仲間に加え、会員数は二七〇名となっています。

二十一年度総会は、四十五名の出席を得て、六月十七日に開催されました。この総会におきまして、手塚道広氏(監査委員事務局監査課長)が会長に、薄井仁一氏(保健福祉部薬務課長)が副会長に新たに選任され、宮崎一義氏(参事兼大田原土木事務所長)が引き続き副会長として再任されました。昨年度まで本会会長を務めた古内正美氏(前県民生活部広報課県民プラザ室長)は、顧問に推挙され、承認されました。

また、議事以外では、御多忙中にもかかわらず、森島堅二校長先生および車田孝夫紫塚同窓会長にも御出席いただき、部活動をはじめ、85km強歩や進学の状況等、文武両面にわたる現役生徒たちの活躍ぶりを御報告いただきました。

本会におきましても、現役生徒たちに負けないよう、母校が教えてくれた「質実剛健」「質素堅実」の校訓をいつまでも忘れず、県政をリードし、魅力ある県土づくりに努力していくことを改めて決意したところです。

最後になりますが、母校大田原高校のますますの御発展を祈念申し上げ、近況報告とさせていただきます。

紫塚同窓会矢板支部

瀬尾 欣右(高七回)

紫塚同窓会矢板支部は、市内の卒業生の方の多くの声を受けて、平成十七年一月の設立総会により組織された誕生後まだ五年余りの若い支部です。

現在の会員は、市内に在住する昭和十七年度、中学三六回から平成六年度、高校第四六回までの卒業生約三百人で構成されており、設立後、毎年度事業報告、決算等を講案として定期総会が開催されています。

平成二十一年度は、六月二十七日に市内のホテルで、大田原高校から森島校長先生をお招きして総会が開催されました。また、総会終了後には、矢板市の前文化財愛護協会長の鈴木幸市先生を講師として、矢板市ゆかりの人物である鎌倉時代の歌人「塩谷朝業」についての特別講演が行われ、鎌倉幕府三代将軍実朝の歌詠みの相手となった話などに、参加した会員は熱心に耳を傾けていました。

その後に行われた親睦会では、同窓生同士が一年ぶり又は数年ぶりの再会、また、世代を越えた同窓の輪を広げての昔話、近況報告など多くの語らいとお酒により、和やかな中楽しいひと時を過ごしました。

平成二十二年度は、五月二十二日に総会を開催する予定で、再び森島校長先生をお招きし、さらに、特別講演として「文武両道」についての講話を賜る予定です。

紫塚同窓会小川支部

森島 政清(高二四回)

当支部は、那珂川町小川(旧

小川町)在住の旧制大田原中学校、大田原高校同窓生で構成されています。支部ができて六十一年、毎年十一月の第二土曜日に開催しております。平成二十一年度総会は紫塚同窓会副会長小林 惺先生、母校恩師古澤實先生(小川在住)、当支部の会員でもある母校校長森島堅二先生をお迎えして、十一月十四日(土)那珂川町小川の料亭みづ乃で開催いたしました。

支部長森嶋信二氏(高一四回)が都合により欠席のため、副支部長国安隆夫氏(高七回)の挨拶がありました。来賓祝辞となり、森島堅二校長より母校の様子などを交えたご祝辞をいただきました。母校の後輩が学業、スポーツに活躍していることを知り、大変嬉しく感じました。

続いて紫塚同窓会副会長小林惺先生より、同窓会の発展のために若い卒業生の積極的な参加を提案いただきました。又、古澤實先生からも卒業生が地元に残れる仕組み作りを何か考えて行かなければとご意見を交えたご祝辞をいただきました。

続いて、当支部規定にある八十歳の長寿を保ち、当会の発展に尽力した会員の表彰となり、佐藤忠和氏(中四〇回)、小室清是氏(中四一回)に副支部長より賀辞と記念品が贈られました。

その後議事も無事終了し、在校当時の思い出などを語り合う和やかな懇親会となりました。「質素堅実」の校風のもと、母校の益々の発展を期待しております。

同期会・クラス会など

大中三九会 紫塚残日録

鈴木和雄(大中三九回)

昭和十三年三月に黒羽の川西小学校を卒業した私は、大田原中学を受験しました。その頃高等普通教育をするのは北那須では大中、烏中と矢張りしか有りませんでした。

試験科目は読方(国語)算術(数学)体操(体育)だけ、六年になると日曜以外は毎日余課(課外授業)と夜学で詰め込まれました。国語の試験は、「海行かば」の全訳と「愛国行進曲」の書き取りが出ました。

丸暗記していたので、何とか出きたのですが「そびゆる富士の姿こそ」の「聳ゆる」だけ書けなかったのが残念でした。しかし、無事合格。川小から十人受験して合格四人の狭き門でした。

戦前の中学校は義務教育ではありませんから厳しい毎日でした。スパルタ教育をした先生は二人。一人は生物ですが受け持ちで毎日昼休みに書き取りの試験をやりましたし、もう一人は数学で教科書を使わず微分積分を叩き込まれました。一番嫌だったのは校長より威張っていた配属校の教練で、兵役義務の無

い今の若者は幸せだと思います。

三年の十二月第二次大戦が始まり、四年の時、クラス全員が結核のツベルクリン反応が陽性になって大騒ぎになりました。栄養不良の処へ担任の教師が保菌者でクラス全員に感染したのです。予科練で戦死したり、結核で死んだり、決して平坦な学生生活ではありませんでした。

昭和十九年通年動員で五年生は金丸原と黒磯の埼玉飛行場に分かれて整備工として働きましたが、戦争、軍隊、軍人の欺瞞性が丸見えで、私の戦争嫌いは決定的になりました。

卒業したのは昭和二十年。最初の同級会は昭和三十六年。以後約八十回を重ねていますが、最初の十回位は出席していません。通年動員で反戦的言動をした私に同級生の資格が与えられず案内状は来なかったのです。

その後私の心が次第に理解され友情も復活して現在に至っています。

平成十二年には、五十五年目の卒業アルバムとして「紫塚残日録」を出版しました。

戦争、予科練、結核、通年動員等で揺さぶり続けられた我々三九回は強い求心力と批判精神予知能力そして友情で固く結ばれているのだと思います。

早いもので「古稀の集い」

長嶋 晟一(高一〇回)

私も紫塚同窓会十年会は、昨年五十五回十年会の折、「古稀」を迎えたことを期に、ゆっくり語り合おうという仲間の意見が盛り上がり、平成二十二年三月七日/八日の一泊二日で、塩原温泉紀州鉄道那須塩原ホテルにて「古稀の集い」を鈴木輝夫君、郡司隆君、田村修也君たちが中心となり、二十九名の仲間が集う中、盛大に開催することができました。

当日は、開会に先立ち、写真撮影の特技を持つ印南紀夫君が記念撮影を担当、続いて在学中慣れ親しんだ校歌や応援歌を合唱の後、懇親会となりました。

酒間の中で出席した仲間から近況の報告がありました。

仲間の中には、大高卒業後初めて顔を合わせた仲間、近くに住んでいても初対面など大変になつかしいものでした。

これまで努力を積み重ね、会社を設立してがんばっている人、商店を経営し着実に実績を上げ、大きな信頼を得ている人、職場で来る日も来る日もがんばり、堂々定年を迎え、悠々自適の毎日(を過)している人、毎日がオーラルサンデー好きな趣味に生きる生活をしている人などそれぞれが表情豊かで勢いを感じた交歓の時でもありました。

ふり返りますと我々が存在していた時代は、今はなき東野鉄道が、国鉄西那須野駅から黒羽までのんびりと走っており、大高前で下車し、通学するといったのどかな環境の中で学んだものでした。

その後、時代が変わり、激しく変化していく社会の中にありながらも、大高の校訓である「質素堅実」の精神を糧に最大の努力を重ね、がんばりぬいてきた参加者の顔には、自信に満ちた充実感を感じたものでした。

私も仲間が全国各地で持前のバイタリテイを大いに発揮、挑戦していく勢いに接し、参加者一同やる気と元気を得ることができた。「古稀の集い」となりました。参加した仲間感謝すると共に、また元気に再会することを期待し散会しました。

近畿紫塚会と私

福田 友之(高一二回)

昭和六十年の夏頃だったと思います。近畿紫塚会の名で関谷夕さん(中二二回)から案内状が届きました。

兵庫県に住み、二十年経っていましたが関西に大田原高校の同窓会組織があることは知りませんでした。出席の返事を出し、会場の有馬温泉「リサイティ」に行きますと、ロビーに年配の方々が居り、尋ねますと大高の先輩方でした。出席者の最高齢

は大正一〇年卒(中一五回)とので、気後れしたことを覚えています。「今回は近畿紫塚会発足五〇周年の記念大会なので一泊にしました」とのこと。

来賓として当時の伊藤義輝同窓会長、吉田正一校長が出席。記念式典、懇親会が終わる部屋に戻りましたら、伊藤会長と吉田校長と同室で気が重くなっているところに小山田徳重さんと松本守夫さん(お二人とも高二〇回)が来室され、気が楽になり話の輪に入れました。

翌朝、最後に部屋を出て靴を履くと違和感があったが、そのまま帰宅。靴を脱いだとき私のでないことに気づきました。数日後、故郷の兄より電話。「吉田校長から電話があり伊藤会長が靴を間違えた。交換せずお互いにそのまま履きましょう」とのこと。兄は、校長から直接電話なので在学中の長男が何か問題を起こしたのではと、ドキッとしたと話していました。

以上が初参加の思い出です。

翌年も同窓会出席。その後宮城県石巻市に転勤になり、同窓会への出席は中断。平成三年三月に兵庫に戻り再び同窓会に出席できるようになりました。

平成五・八・九・十三年の近畿紫塚会は、母校の「全国高校駅伝大会出場」で活気づきました。大会当日は京都の西京極陸上競技場に参集し、関西栃木県人会、千草会近畿支部の方々と

一緒にやり応援しました。平成五年の大会では大高のアンカーがゴールする直前に虹が出て、虹をバックにゴールする姿は強烈な印象として残っています。いずれの大会でも同窓仲間からは「次は甲子園！」の声が上がっていました。

平成七年の第六〇回同窓会から千草会近畿支部も参加され、合同同窓会になり会場が花やかなりになりました。

近畿紫塚会に出席するようになり二十五年。途中出席できないこともありましたが、出席するたびに和やかな会であると感じています。参加者が三十名前後で全員の顔が見え、自己紹介での故郷訛りを聞いたりと、日ごろ忘れていた故郷を思い出します。これからも近畿紫塚会に参加し、楽しく刺激ある一日を過ごしたいと思っています。

昭和四十四年度卒同級会

吉成 仁見(高二二回)

昨年四月に、同級生の森島堅二君が大田原高校の校長に赴任しました。同じ時に、偶然にも同級生の藤田泰君が教頭でしたので、これはなかなか無いことだと思えます。良い機会を得て急に思い立ち、大田原周辺に在住の有志を誘って、同級会を開きました。

大田原高校で三年間ご指導を

賜った恩師河又恭一先生にも出席していただきました。そして、恩師とともに美味しい酒を酌み交わしました。

大田原高校時代は、大学受験という目標がありました。ことに楽しく夢多き毎日でした。皆、教室で、ある時はまじめに、ある時は馬鹿なことを、ある時は夢を語り合いました。そして、卒業してからはそれぞれの道を歩んで行きました。今まで、皆忙しく働き続けていたためか、卒業以来一同に会することはありませんでした。三年四組の四十年ぶりの同級会はただただ懐かしく、時間が過ぎるのを忘れませんでした。



江戸紫(Edo-murasaki)会

溝口 勝(高三〇回)

二〇一〇年三月十九日(金)十九時より、東京駅八重洲口の「青玄海」で、第10回江戸紫(murasaki)会が開催された。参加者は十五名。例年五月と十一月に定期的に開催しているが、今回は東京勤務が終了し栃木へ帰るM君の送別会を兼ねて、三月の繰り上げ開催となった。お店自慢の玄海灘の魚をつまみながら、銘酒十四代を飲めば、栃木弁もなめらか。あつという間に二二時三〇分になり、初参加W大学応援歌OB?のN君の名音頭で校歌を熱唱し、解散となった。

本会は、二〇〇五年十一月に、成田和夫君と中山正行君(高三〇回)が東京在住の同期OBに呼びかけ、鈴木敏夫君(高三〇回)が弟の鈴木高志君や益子彦君(共に高三五回)を誘って、合同で飲み会をしたことに始まる。現在の登録会員は、一九七八年以降の卒業生三十六名。毎回、会の終了時に次回の幹事を決め、メールで連絡を取っている。江戸紫という名称は、第七回から使われるようになった。仕事上思わぬところで大高OBが繋がっていることを発見するなど、今まで交流のなかった学年との付き合いもまた楽しいものである。今回は十一月の総会

日に合わせた開催を予定している。本会に関心のある方は左記にアクセスください。

http://groups.yahoo.co.jp/group/p/edo-murasaki/



医療法人社団 亮仁会 那須中央病院

理事長 臼井 亮平(中38回)

〒324-0036 栃木県大田原市下石上1453番地
TEL 0287-29-2121 FAX 0287-29-2501
E-mail:nasuchuoh@mtg.biglobe.ne.jp



ISO-9001・ISO-14001 認証取得

総合設備業

大橋総設工業株式会社

代表取締役 大橋 保(高29回)
取締役会長 大橋 照男(中43回)

〒324-0057 栃木県大田原市住吉町2丁目4番24号
TEL:0287-23-3100(代) FAX:0287-23-3102

山岳部OB会にのぞむもの

郡司博幸(高四一回)

平成二十一年十一月十四日、山岳部創部以来二回目のOB会を開催しました。我々が大田原高校山岳部も創部からはや二十四年が経過し、その間二十回以上OBを輩出するまでに到りました。しかし前回の第一回OB会が開催されたのは平成十六年でしたので、すでに五年が経過しており、その開催には多少の不安もありました。しかしOBや歴代顧問の先生方三〇名に集まっていたいただき、その不安は払拭されましたが、同時にもっと多くのOBに参加してもらえ、運営をしたいと思いました。

招待状の作成にあたり、名簿を整理してみたところ、約一〇〇名以上のOBを抱えるまでになっていました。各年代の平均部員数は約六名になりますので、決して多いとは言えませんが、そのかわり、部員同士の団結力は他のどの部にも負けないと思っています。

OB会の様子ですが、年代もさまざま集まりですし、前回から五年という時間の経過もありましたので初めは堅い印象でしたが、お酒が入って落ち着いてくると、どの年代にもいくつか存在する武勇伝や逸話の話で盛り上がりました。話の中心はやはり、ハードな練習の話と、

顧問の神島先生にまつわる話が多かったと思います。

二十年以上の歴史があると、様々な分野で活躍されるOBも多くなっています。これからはOB同士で協力しあったり、助けあったりできる仲間になれば、と思っています。特に昨今の東北地域は元気が無いように感じられますので、盛り上げて、いければと思っています。

同じ部に所属し、同じ釜の飯を食べ、同じ練習をした仲間同士、高校卒業という区切りで交遊を持たないのは大変もったいないことですし、何と云っても山は最高なので、山に行っても、わう感動を分かち合うためにも、これからは定期的にOB会を開



催して、OB同士の親交をもっと深めて、国内に止まらず海外への遠征も出来るような会にしていければ最高だと思います。

高校卒業と同時に山に行く機会を失ってしまう部員も多くいるかもしれません。そんな部員の受け皿にもなれるような活動をOB会として展開していければと考えています。今回のOB会はその布石になりうるものだったと思いますので、これからもOBや顧問の方々の協力をいただきながら、さらなる歴史を積み上げていきたいと思っています。

吹奏楽を通して

平成十四年度卒業生

渡辺 和宏

中学で念願の吹奏楽部に入部し、そこで受けた教えが今の自分の糧になっていると言っても過言ではない。仲間と形のないものを生み出す喜び、またその中での悔しさを味わったあの日々を今でも忘れはしない。大高では受験のレッスンの為、部活には一年しか在籍していなかったが、男だけの音楽はまた一味違って楽しかった。国立音大に入ってから、吹奏楽指導で関東圏を中心とする小・中・高等学校の沢山の生徒と関わってきた。公立・私立と様々な環境・条件の中で活動している生徒ではあるが、いつも皆から共通して感じさせられることがあった。

それは、目にも見えぬ形にも残らないものを仲間と作り上げようとする意識、自分たちの思いや音楽の感動を聴衆に伝えようとするその気持ちが音となって聞こえてきたときの身震いする様な、なんとも言えない感覚に包まれるということである。私は今、都内の某私立小学校で教諭として働いています。生徒たちから感じさせられるこの感覚に加え、卒業後の大高で何年かに渡り指導させて頂いた経験がこの道へ進む決め手となった。

吹奏楽をやるには決して楽器や練習環境に恵まれているとは言えない大高生ではあるが、勉強で忙しい中一生懸命に、また地道に音楽をつくり上げる姿に寄り添わせてもらい心打たれる思いであった。あの年頃誰しもが持っている熱い思いを音楽にぶつけ、その音楽で心を育てていきたい、そう思わせてくれたのは何年も後の大高生だった。指導に行っただ自分の方が、却って大高生に教えられたことの方が多かつたように思う。現在は指導には行っていないのだが、先生方の優れたご指導のもと大高の吹奏楽部・合唱部共に年々レベルを上げ、今では沢山の聴衆を感動させていると聞いている。来年三月末の定期演奏会も二十回を迎えるそうなので、今後の大高健児の成長を見守ると共に、この彼らの熱い音楽を是非、沢山の方々に味わって欲しいと思う。



平成21年度部活動実績(関東大会以上の出場部)

NO	部名	大会名	参加者・種目・成績
1	陸上競技部	関東高校大会(宇都宮)	生田 桂太(2年)400mH 田中 直樹(2年)3000mSC
		関東選手権大会(千葉県)	生田 桂太(2年)400mH 田中 直樹(2年)3000mSC
		関東高校選抜新人大会(千葉県)	生田 桂太(2年)400mH、田中 直樹(2年)3000mSC 猪瀬 洗樹(2年)1500m、島田 直人(1年)5000m 北原 駿一(1年)3000mSC
		関東高校駅伝大会(山梨県)	藤田 達也(3年)、大井川 岳(3年) 田中 直樹(2年)、西村 俊亮(2年) 猪瀬 洗樹(2年)、神谷龍之介(2年) 月井 一希(1年)、赤川 貴幸(1年) 島田 直人(1年)、北原 駿一(1年)
2	ソフトテニス部	全国高校総合体育大会(奈良県)	尾形 佳祐(3年)、木下 慎也(3年) 中井 健太(3年)、飯倉 涼(3年)
3	柔道部	関東高校大会(宇都宮)	川瀬 聖太(3年)、山内 俊(3年) 阿久津 輝(2年)、稲村 愛輝(2年) 薄井 伸和(2年)、村上 拓也(2年) 松山 拓也(2年)
		関東高校選抜大会(宇都宮)	阿久津 輝(2年)、稲村 愛輝(2年) 薄井 伸和(2年)、坂上 竜也(2年) 村上 拓也(2年)、本郷 航(1年) 多田 隼平(1年)、堀井 悠介(1年) 星 頌良(1年)、中村 龍徳(1年)
4	相撲部	関東高校大会(東京都)	阿久津 輝(2年)、稲村 愛輝(2年) 薄井 伸和(2年)、坂上 竜也(2年) 村上 拓也(2年)、本郷 航(1年) 多田 隼平(1年)、堀井 悠介(1年) 星 頌良(1年)、中村 龍徳(1年)
		関東高校選抜大会(宇都宮)	稲村 愛輝(2年)、村上 拓也(2年) 薄井 伸和(2年)、阿久津 輝(2年) 戸邊 一紀(1年)、多田 隼平(1年) 坂上 竜也(2年)
5	水泳部	日本選手権大会(静岡)	菊地 翔太(3年)200m自由形
		関東高校大会(小山)	菊地 翔太(3年)200m自由形、400m自由形、リレー 渡辺 雄太(2年)400m自由形、1500m自由形、リレー 内海 悠介(1年)1500m自由形、リレー 川瀬 満丸(1年)400m個人リレー、リレー 錦木 寛史(3年)リレー、小川 大地(3年)リレー 小田戸 聡(2年)リレー、藤田 康介(2年)リレー 安永 誠治(1年)リレー、箱崎 翼(1年)リレー
		国民体育大会(新潟県)	菊地 翔太(3年)400m自由形、リレー
		ジャパンオープン2009(東京都)	菊地 翔太(3年)200m自由形、400m自由形
		全国高校総合体育大会(大阪府)	菊地 翔太(3年)200m自由形、400m自由形、400mリレー 渡辺 雄太(2年)400mリレー、小田戸 聡(2年)400mリレー 箱崎 翼(1年)400mリレー、川瀬 満丸(1年)400mリレー
		日本短水路選手権大会(東京都)	菊地 翔太(3年)200m自由形、400m自由形
6	山岳部	全国高校総合体育大会(兵庫県)	前沢 桂介(3年)、渡辺 健吾(2年) 後藤 亮介(3年)、渡邊 健吾(2年)
		関東高校大会(茨城県)	加藤 拓也(2年)、井上 大輝(2年) 大草 陽史(2年)、土屋 博紀(1年)
7	囲碁将棋部	関東地区高校文化連盟大会(宇都宮)	清水 明(2年)
8	スキー	関東高校大会(群馬県)	斎藤 遥峰(2年)GSL、SL
9	書道愛好会	全国読書大会(東京都)出展	中塔 和平(3年)日本書道美術院賞受賞

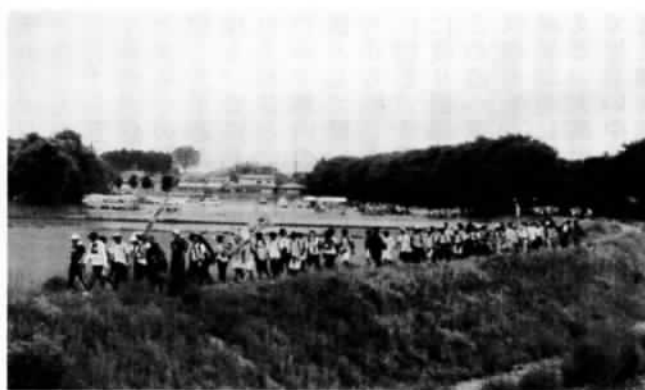
1)水泳部の菊地翔太(3年)は、全国大会の国民体育大会で三力年連続入賞。
2)山岳部・ソフトテニス部は、2年連続(埼玉・奈良)全国高校総合体育大会(インターハイ)に出場。

母校の近況
第25回85キロ強歩

二十二年度の強歩は、五月十九日(水)・二十日(木)の二日間で実施された。強歩初日の十九日午後三時過ぎより小雨が降り出した。雨は弱く歩くのに支障のある降りではなかった。紫根中学校では体育館および通

路で雨を避けながら夕食を取った。その後も雨はそれほど強くはないが、じわじわと生徒たちの体を濡らし、足下はびっしょりの状態で体力の消耗も見られた。第二日目の二十日午前二時、休憩地点の黒磯北中学校体育館にて森島校長より途中中止が生徒たちに伝えられ第25回強歩は終了した。雨の降る厳しい状況のなか95%を超える生徒が歩き通したこと、制限時間ぎりぎり

でもあきらめずに歩き続けた生徒たちがいたことには心から敬意を表したい。今年も同窓会をはじめ地域の皆様、PTA等多くの方々のご支援をいただきながら無事終了できたことに感謝致します。また、同窓会には一昨年度は母校補助活動で無線機を購入していただき、本年度は蛍光たすきを購入していただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。



平成二十一年度寒稽古は平成二十二年一月十八日(月)・二十日(金)の五日間にわたって行なわれた。種目は柔道、剣道、弓道、耐寒マラソンに分かれており、早朝六時から始まる。今年も六四〇名の生徒が参加した。三カ年皆勤者は一二六名(五二・九%)で賞状とトロフィーが与えられた。最終日の一月二十二日には納会が行なわれ、保護者の協力により豚汁がふるまわれた。



平成二十一年度寒稽古

平成二十一年度卒業式

平成二十一年度卒業式が三月一日(月)に厳粛な中にも盛大に挙行され、森島堅二校長から卒業生代表の佐藤大悟に卒業証書が授与された。

車田孝夫同窓会長は来賓祝辞として、「卒業後も一日一日を大切に、世のため人のために学び続けて下さい。」と饒の言葉述べられた。

代表として、「共に過ごしてきた最高の仲間たちのことを決して忘れることなく、手を取り合っ

平成二十二年入学式

平成二十二年四月七日(水)、平成二十二年度第六五回入学式が挙行された。

入学許可後の式辞で、森島堅二校長は新入生二四〇名の入学を祝福するとともに、新入生がこれから送る高

第108回創立記念式典 記念講演会

四月十九日月曜日、本校第一体育館において、第百八回目となる創立記念式典が開かれた。

森島校長、車田同窓会長、後藤PTA会長から、厳しくも温かく、そして大高の将来を見据えた挨拶を賜り、厳粛な雰囲気のうち

平成22年度入試 主要大学の合格者数

()内は過年度卒の内数

年度	22年	21年	20年	22年	21年	20年	
東京	0	1	0	自治医科	1	0	0
京都	1	1 (1)	1	早稲田	11	9 (2)	18 (2)
東京工業	2	0	1	慶應義塾	4	4 (1)	5 (1)
一橋	0	3	1	明治	20 (1)	21 (1)	31 (2)
大阪	0	1	1	法政	8 (2)	17	17 (1)
名古屋	0	1	3	立教	5	4	1
東北	9	12	12 (1)	上智	4 (1)	1	2
北海道	2	3	2	中央	14 (1)	23 (3)	28
筑波	1	2	6 (1)	東京理科	26	17	29 (2)
千葉	5	6	14	青山学院	6	12	13
横浜国立	0	1	1	日本	56 (4)	45 (1)	39
東京農工	3	4	2	専修	17 (3)	13	6
東京学芸	1 (1)	5	4	芝浦工業	16	12 (1)	14
金沢	2	4	1	東京都市	4	8 (2)	6
宇都宮	16 (1)	17 (1)	14	成蹊	9 (1)	2	7 (1)
埼玉	9 (2)	8	6	東海	19	16	2
電通信	1	1	1	東洋	20 (1)	19	4
新潟	8 (1)	7 (1)	1	大東文化	3	4	2
静岡	1	1	9	駒沢	6	6	4
秋田	6	0	5	国際医療福祉	14 (2)	17	18 (1)
山形	3 (1)	3	7	白鴎	8	10	5
茨城	7 (1)	8	5	神奈川	8	11	20
首都大東京	3	1	7 (1)	立命館	10	7	10 (1)

また、後藤伸一PTA会長は、慈愛に満ちた励ましの言葉で新入生を祝福した。

「私の歩んだ道から」と題された氏の講演は随所にユーモアを支え、ときに会場に笑い声を起こさせながら、話に引き込んでいくものだった。



栃木県立大田原高等学校 第108回創立記念式典・記念講演 平成22年4月19日

「今の大学生には教養がない」「教養を身につけて本当の知識人を目指してほしい」という言葉は、日々学習に勤しむ本校生にとって印象に残る言葉であった。

平成二十一年度
財団法人

紫塚奨学団報告

本紫塚奨学団は、大正七年、多数の同窓生から寄付された財産一、八五〇円を基金として創設されました。事業の内容は、奨学資金の貸与と優良生徒の顕彰であり、基本財産が生み出す利子を主な事業資金とするものです。基本財産の充実にについては、創設後からの篤志寄付に加えて、昭和五七年度に迎えた学校創立八〇周年記念事業の主たる事業として取り上げられ、同窓会の熱心なご協力をいただき飛躍的に増額されました。その後同窓会をはじめ多数の同窓生からのご寄付をいただいております。

平成一四年度からは、寄付金

財団法人紫塚奨学団 平成21年度事業報告

1 事業の状況

(1) 奨学金の貸与

大学生 4名 月額 30,000円
新規採用者 2名 一括 500,000円

(2) 奨学団賞授与

① 顕彰者

・佐藤 大悟 進学先 早稲田大学 文学部

② 3ヶ年皆勤者 85名に対して記念品を授与

2 寄付金に関する事項

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

・井上 成紀様 (現評議員・高12回)	30,000円
・匿名 希望様	20,000円
・大林 茂俊様 (高23回)	50,000円
・篠崎 勝則様 (現評議員・高14回)	30,000円
・平成21年度卒業生	238,000円
・青木 勲様 (高9回)	100,000円
合計	468,000円

028712212042 (大高)

郵便局振替口座

0035014111356

口座名 財団法人紫塚奨学団

係教諭 川又

同窓生の皆様には、従来より

奨学団へのご支援をいただいておりますが、今後ともなお一層

のご理解とご支援をいただければ幸いです。

と返還金を貸与金に直接活用することにより新規採用者を一名、貸与月額を三万円といたしました。しかしながら、財団の運営

結果、次のような方針で運営していくことになりました。

① 寄付金を基本財産に繰り入

れる。

② 平成二〇年度から当面の間

は、新規採用者二名に対して、

入学時に一括して五〇万円を貸

与する。

入学金を一括して五〇万円を貸

与する。

入学金を一括して五〇万円を貸

与する。

入学金を一括して五〇万円を貸

与する。

入学金を一括して五〇万円を貸

与する。

ALSOX ホームセキュリティα 北関東総合警備保障

代表取締役社長 青木 勲 (高9回)

本社：宇都宮市不動前1-3-14
TEL：028-639-0301

inoue 井上眼科医院

井上 成紀 (高12回) 井上 直紀 (高43回)
井上 順 (高44回) 井上 亮 (高49回)

〒324-0051 大田原市山の手1-2-11
☎ 0287-22-2514

NASU 株式会社 NASU設計

代表取締役 篠崎 勝則 (高14回)
一級建築士

本社 〒324-0005
栃木県大田原市練貫364番地67
TEL. 0287-23-7861
FAX. 0287-23-7819
E-mail nasuarc@gaea.ocn.ne.jp

郷土の発展と共に、一世紀 since 1884

那須土木株式会社

那須土木株式会社一級建築士事務所

本社/栃木県大田原市中央1丁目13番10号
TEL 0287(23)5678/FAX 0287(23)0355
URL <http://www.nasudokk.co.jp>

代表取締役 玉木 茂 (高20回)
取締役総務部長 宇山 洋一 (高19回)
総務課長 桑名 知久 (高37回)
総務課主任 桑郡 康雄 (高45回)
住宅事業部住宅建築課長代理 矢吹 博司 (高46回)

吉成小児科医院

医師 吉成 仁見 (高22回)

〒324-0055
栃木県大田原市新富町2-1-22
電話 (0287) 22-2412
FAX (0287) 24-0607

鈴木歯科医院

鈴木 和雄 (中39回)

〒324-0241
大田原市黒羽向町74
TEL 0287-54-0700



小林内科外科医院

平成22年4月開院いたしました

小林 伸久 (高33回)

〒324-0028
大田原市富士見1-1606-265
TEL 0287-23-8870

車田 医院

車田 孝夫 (高3回卒)
車田 宏之 (高32回卒)

栃木県大田原市大豆田457-24
電話 0287(54)0062

社会保険労務士法人 ソウマ・高根事務所

社会保険労務士
相馬 誠一 (商3回)

〒101-0063
東京都千代田区神田淡路町1-11
中野ビル5階 TEL03-3251-5141

内科・小児科・循環器内科 医療法人 金澤 医院

理事長 金澤 正邦(高15回)
事務長 金澤 政史(高47回)

〒325-0052
栃木県那須塩原市中央町1-8
TEL 0287(62)0029
FAX 0287(64)2590

京都地所株式会社

代表取締役 石戸 芳雄 (高8回)

〒329-2712 那須塩原市下永田1-1012-14
TEL 0287-39-7070

セレモニーホール あぶらや

有限会社 油屋 商店

吉川 恵造 (高7回)
吉川 秀之 (高34回)

〒324-0051 栃木県大田原市山の手1丁目1番22号
(本店) TEL 0287-22-2219 FAX 0287-23-7863
(ホール) TEL 0287-24-2411 FAX 0287-24-2412

YAMAGATAYA 株式会社 山形屋 金属加工


代表取締役 加藤 利勝 (高16回)

〒324-0236 TEL:0287-59-0240
大田原市大輪110-1 FAX:0287-59-0241

「上杉文化と本場米沢牛」 小野川温泉/ホテルの里 小野川温泉 登府屋旅館

代表取締役 遠藤 章作 (高16回)
社 長 (旧名 高梨)

〒993-0076 山形県米沢市小野川町2493
TEL 0238-32-2611 メール tofuya@tofuya.jp
FAX 0238-32-2613 URL www.tofuya.jp

鈴の宿 検索 



相澤弘邦木版画展 (高16回)

10/4(月)~10/9(土)

ギャラリーGK

中央区銀座6-7-16
第1岩月ビル1階

自動車整備機器、工具、機械工具専門商社

株式会社 ダイイチ

代表取締役 今泉 薫 (高20回)

本社 東京都大田区久が原2丁目20番1号
〒146-0085 TEL03(3752)7111・FAX03(3752)7110
Web site: http://www.daiichi-tokyo.com

株式会社 テクノ産業

代表取締役
秋間 忍 (高16回)



〒325-0033
栃木県那須塩原市埼玉371-8
TEL 0287-62-6010
FAX 0287-62-8998
E-mail: techno@nasuinfo.or.jp
http://www.tecowl.co.jp

(株)田中建築事務所

専務取締役
阿久津 賢次 (高16回)

本社
〒108-0074
東京都港区高輪2-16-45 高輪中山ビル
TEL 03-5420-2431 FAX 03-5420-2461

三九会

(さんきゅうかい) (高16回)
2007年1月発足以来、東京
と大田原を中心に親睦会を開催。
会員は三桁を超えました。
増渕忠行 電話 0287-24-0287
岡本之良 電話 048-442-4364

有限会社 木屋油店

代表取締役 菊池 眞司 (高17回)

〒324-0241
大田原市黒羽向町1136
TEL 0287-54-0863

中国料理 応竜

田代 誠一 (高18回)
田代 尚之 (高47回)

大田原市城山2-2-12 (消防署近く)
☎0287-22-2801 (代) FAX 23-8383

寿司・幕の内・割烹仕出し
有限会社 **まえむろ**

代表取締役 渡辺 繁治
(高19回)

TEL 0287 (22) 6849

医療法人

飯塚歯科医院

理事長 飯塚 基 (高22回)

栃木県那須郡那珂川町馬頭368
TEL (0287) 92-2657
FAX (0287) 92-3560

磯齒科医院

磯 勝彦 (高22回)

〒325-0045
那須塩原市高砂町4-6
TEL 0287-64-2171

医療法人 博友会
原眼科医院
HARA EYE CLINIC

院長 原 裕 (高20回)

〒324-0042
大田原市末広1丁目5番27号
(大田原市農協ヨコ)
TEL 0287 (24) 0011

栃木県指定伝統工芸品 黒羽藍染

紺屋

店主 高22回 小沼重信


大田原市黒羽向町88 0287 (54) 0865

 ビジネスホテルアジサイ
BUSINESS HOTEL AJISAI

株式会社 関商事

代表取締役 関 幸一 (高22回)
常務取締役 関 勝太郎 (平成9年)

〒329-2745
栃木県那須塩原市三区町637
TEL 0287-36-8181 FAX 0287-36-4141

 トコ産業 トコ住器(株)

代表取締役 塗茂 哲治 (高22回)

〒329-2745
栃木県那須塩原市三区町659-39
TEL 0287-37-0851 (代)
FAX 0287-36-7185

有限会社 高松自動車販売

代表取締役 高松 勝 (高22回)

〒324-0018
大田原市上奥沢85-5
TEL 0287-23-3818

(有)ナルミヤスポーツ

成宮 正人 (高44回)

大田原市中央2丁目16番地15号
TEL (0287) 23-6668
FAX (0287) 23-6437

すきやき・しゃぶしゃぶ・とんかつ

岡 繁

大小宴会承ります (料理3,000より)

岡野 繁雄 (高23回)

大田原市山の手1-3-9
TEL 0287-22-2474
FAX 0287-22-2718

タイル工事・石工事・リフォーム工事

八三毛株式会社

HASIMO
代表取締役社長 橋本 徹 (高32回)

藤田 静男 (高25回) 益子 範明 (高32回)
荒牧 量 (高32回) 山崎 洋 (高33回)
橋本 悟 (高41回) 渡辺 毅 (高45回)
八木沢 豊 (高48回)

本社/大田原市南金丸2000 TEL 0287-24-0010(代)
東京営業所/北区赤羽台3-2-20 高尾ビル1F TEL 03-5963-6685
<http://www.hasimo.co.jp>

各種印刷

飯村印刷

飯村 忠雄 (中42回)
飯村 通 (高28回)

TEL 0287-22-2016(代)
FAX 0287-23-4055

きれいな写真は、

ミハル写真館〒324-0051
大田原市山の手2-6-33
TEL0287(22)2566
(消防署前)**藤田山円光寺**住職 神島 仁誓 (高24回)
〒329-2755
那須塩原市西原町4-5
TEL 0287-36-0476
FAX 0287-36-2965**鎌田 医院**鎌田美樹雄(高24回)
〒324-0035
大田原市薄葉2252
TEL 0287-29-2055**DI** 住んでよし心ゆたかな 大田原

—— D I グループ ——

(有)藤田材木店 株式会社大一不動産栃木県大田原市美原3丁目3266-1 栃木県大田原市紫塚1丁目14-13
TEL 0287(22)2617 TEL 0287(22)5119
代表取締役 藤田 昭彦(高26回) 代表取締役 小坂橋 博 幸

ORTHOPAEDIC

西田整形外科医院整形外科・リハビリテーション科
整形外科専門医
院長 西田 三郎(高30回)
大田原女子高校そば
〒324-0053
栃木県大田原市元町1丁目9-18
TEL 0287-20-3100

各種自動車販売・民間車検・石油類販売

(有)小浦モータース小浦 道夫(高27回)
小浦 敏夫(高31回)本社 大田原市佐久山2208番地
佐久山SS TEL 0287(28)0016
実取SS TEL 0287(28)0480
車検センター TEL 0287(36)5338エクソンモービル有限公司
代理店**(有)浅井 礦油**代表取締役 浅井 元
(高29回)〒324-0057
栃木県大田原市住吉町1-14-20
TEL 0287(23)3366(代)**野崎皮膚科**

野崎 重之(高30回)

〒324-0042
大田原市末広3-3004-2
TEL 0287(24)6136日本整形外科学会専門医
医療法人**阿久津整形外科**(リウマチ科・
リハビリテーション科)

院長 阿久津 政司(高37回)

〒329-2727

栃木県那須塩原市永田町3-16
(西那須野駅前)
TEL 0287(36)3639(代)**三 森 医 院**三 森 武 夫
高 梨 薫(高34回)栃木県那須塩原市宮町1-9
電話 0287(62)1095**セイワ薬局**

星 和 明(高30回)

〒324-0042
大田原市末広2-8-27
TEL 0287(22)2628**吉成 歯科 医院**

吉 成 慶 司(高23回)

〒324-0234 大田原市前田145
TEL 0287-54-2600**ExxonMobil** エクソンモービル代理店**(有)吉田屋商店**

代表取締役 森 英夫(高30回)

那須塩原市西栄町1-8 本社 36-0013 ICSS 36-4661
電話(西那須野) 0287 国道SS 36-0817 BPSS 36-1493

平成22年度紫塚同窓会一般会計予算

1. 収入の部

Table with 5 columns: 項目, 本年度, 前年度, 増減, 備考. Rows include 前年度繰越, 入会金, 会費, 寄付金, 雑収入, 合計.

2. 支出の部

Table with 5 columns: 項目, 本年度, 前年度, 増減, 備考. Rows include 創立記念費, 総会費, 十年会費, 会議費, 通信費, 会報, 卒業褒賞補助, 母校活動補助, 慶弔費, 支部会等補助, 旅費, 事務費, 事業積立, 雑費, 予備費, 合計.

平成22年度紫塚同窓会事業計画

- 4月19日(月) 第108回創立記念式典
4月19日(月) 監査(後藤・加藤監事)
5月7日(金) 総会及び十年会第1回準備会
5月15日(土) 総会及び栄典者祝賀会
6月下旬 同窓会報第35号発行
7月28日(水) 十年会第2回準備会
8月15日(日) 第57回十年会
(中44回、高2回、高12回、高22回、高32回、高42回、高52回)

随時 正副会長監事会

- 2月下旬 常任理事会
2月28日(月) 同窓会入会式(高63回)

平成22年度各支部総会等

- 紫塚同窓会矢板支部総会 5月22日(土) 矢板イースタンホテル
紫塚同窓会東京役員・幹事会 7月16日(金) 品川プリンスホテル
紫塚同窓会ゴルフ大会会長杯 10月16日(土) 那須黒羽GC
近畿紫塚会総会 10月23日(土) 魚佐旅館
紫塚同窓会東京会総会 11月5日(金) グランドプリンスホテル赤坂
小川地区紫塚同窓会総会 11月6日(土)
県庁紫塚同窓会総会 未定
宇都宮紫塚同窓会総会 未定

財政状況

同窓会会計からのご報告とお願いを申し上げます。同窓会運営の重要な基盤であり、同窓会運...

編集後記

同窓会報の編集に携わって三年目。思うようにまとまらず、悩む日々が続きました。とは言え、多くの方に御協力をいただき、うれしいことも沢山ありました。大先輩や若い会員の皆様からの原稿、多くの方から広告もいただき有難うございました。常任理事・理事の見直し追加はギリギリまで情報を取り込みました。この年で、別刷りにしました。該当年次だけでなく、大田原高が卒業生として縦の繋がりが元が強く、益々元気が出る元になれば幸いです。活性化のため御意見、投稿等、お気軽にお寄せ下さい。

会報担当・増淵忠行